

NetBackup™ ネットワーク ポートリファレンスガイド

リリース 11.1

NetBackup™ ネットワークポートリファレンスガイド

最終更新日: 2026-01-22

法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity, Inc. All rights reserved.

Cohesity, Veritas, Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta, Cohesity Alta, NetBackup は、Cohesity, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity, Inc. からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity, Inc. およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesityがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity, Inc.
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup のネットワークポートについて	5
	NetBackup で使用される TCP ポート	5
	旧バージョンのホストとの互換性	5
第 2 章	NetBackup ポート	6
	NetBackup のデフォルトポート	6
	NetBackup プライマリサーバーのポート	7
	NetBackup メディアサーバーのポート	8
	NetBackup クライアントのポート	9
	NetBackup WORM ストレージサーバーのネットワークポート	10
	NetBackup Snapshot Manager のポート	11
	NetBackup Web UI のポート	12
	Java コンソールのポート	13
	D-NAS ポート	13
	NDMP サーバーポート	14
	DataDomain OpenStorage ポート	14
	NetBackup 個別リカバリテクノロジー (GRT) ポート	14
	ネットワークアドレス変換とポートアドレス変換	14
	NetBackup の従来の Web サービス用のポート構成	15
第 3 章	他のネットワークポート	18
	NetBackup Deduplication ポート	18
	NetBackup マルウェア検出ポート	19
	NetBackup VMware ポート	20
	NetBackup vSphere Web Client プラグインのためのポートの使用	20
	Nutanix AHV クラスタポート	21
	さまざまなアレイに必要なポート	21
	Kubernetes 作業負荷のポート要件	23
	NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) ポート	23
索引	26

NetBackup のネットワークポートについて

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup で使用される TCP ポート](#)
- [旧バージョンのホストとの互換性](#)

NetBackup で使用される TCP ポート

NetBackup はプロセス間での通信で主に TCP プロトコルを使います。プロセスは同じホスト、または異なるホストで動作できます。この分散型のクライアントサーバーアーキテクチャでは、NetBackup プロセスに固有の宛先 TCP ポートがネットワークインフラストラクチャのすべてのファイアウォールを介してアクセス可能になっている必要があります。

また、ファイアウォールは接続元ポートに基づいて接続をフィルタ処理するように設定されるかもしれません。NetBackup は、通常、外部への接続で予約済みでない接続元ポートを使います。

以後のセクションでは、既定の構成で NetBackup によって使われる TCP ポートを説明します。ホスト間のホストおよびネットワークデバイスのネットワーク層は、これらの接続を許可するように設定する必要があります。NetBackup は適切な接続が設定されることを必要とし、適切に設定されないと動作できません。

旧バージョンのホストとの互換性

- 予測想定どおりの処理が実行され、接続がリスニングされていることを確認するために、オペレーティングシステムのコマンド (`netstat`、`pfiles`、`lsof`、`process monitor`) を使用します。
- `bptestbpcd` コマンドは NetBackup サーバーのみに存在します。

NetBackup ポート

この章では以下の項目について説明しています。

- **NetBackup** のデフォルトポート
- **NetBackup** プライマリサーバーのポート
- **NetBackup** メディアサーバーのポート
- **NetBackup** クライアントのポート
- **NetBackup WORM** ストレージサーバーのネットワークポート
- **NetBackup Snapshot Manager** のポート
- **NetBackup Web UI** のポート
- **Java** コンソールのポート
- **D-NAS** ポート
- **NDMP** サーバーポート
- **DataDomain OpenStorage** ポート
- **NetBackup** 個別リカバリテクノロジー (GRT) ポート
- ネットワークアドレス変換とポートアドレス変換
- **NetBackup** の従来の **Web** サービス用のポート構成

NetBackup のデフォルトポート

NetBackup は、さまざまなサービスに接続するときに主にポートを接続先ポートとして使います。

Cohesity はこれらのポートを IANA (Internet Assigned Number Authority) に登録しており、他のどのアプリケーションによっても使われないようにしています。

NetBackup の一部の機能やサービスでは、追加のポートを開く必要があります。それらの要件は後のセクションで詳しく説明します。

デフォルトでは、NetBackup は接続元ポートの一時的な範囲からポートを使用します。それらのポートは、オペレーティングシステムによって提供される範囲からランダムに選択されます。

メモ: [接続オプション (Connect Options)] および他の設定を行うと、接続元および宛先のポートが選択される方法が変更されることがあります。これらの設定および他のデフォルト以外の設定は、ここでは説明しません。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド』の Vol. 1 と Vol. 2 を参照してください。

次の表は、さまざまなサービスに接続するために NetBackup が必要とするポートをリストしたものです。

表 2-1 NetBackup ポート

サービス	ポート	説明
VERITAS_PBX	1556	Private Branch Exchange サービス
VNETD	13724	NetBackup ネットワークサービス

NetBackup プライマリサーバーのポート

プライマリサーバーは、メディアサーバーおよびクライアントと通信できる必要があります。次の表は、プライマリサーバーに必要な最小のポートを一覧表示しています。

表 2-2 NetBackup プライマリサーバーのポート

ソース	宛先	サービス	ポート
プライマリサーバー	メディアサーバー	VERITAS_PBX	1556
プライマリサーバー	メディアサーバー	VNETD	13724 ¹
プライマリサーバー	クライアント	VERITAS_PBX	1556
プライマリサーバー	クライアント	VNETD	13724 ₁
プライマリサーバー	メディアサーバー	NBSSC	5637 ²

1 - 耐性ネットワーク機能を使用している場合、または NetBackup 8.0 以前のプライマリサーバーが PBX を介してレガシーサービスにアクセスできない場合に該当します。

2 - このポートは、クラウドストレージ用に構成されたメディアサーバーに対し、旧バージョンのメディアサーバーをサポートするために使用されます。サポートされるのは、バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーのみです。

古いメディアサーバーがこのポートを使用していることを確認してください。古いメディアサーバーが別のポートを使用している場合、プライマリサーバーとの通信が失敗します。

NetBackup メディアサーバーのポート

メディアサーバーは、プライマリサーバーおよびクライアントと通信できる必要があります。次の表は、メディアサーバーに必要なポートをリストしたものです。

表 2-3 NetBackup メディアサーバーのポート

ソース	宛先	サービス	ポート
メディアサーバー	プライマリサーバー	VERITAS_PBX	1556
メディアサーバー	プライマリサーバー	VNETD	13724 *
メディアサーバー	メディアサーバー	VERITAS_PBX	1556
メディアサーバー	メディアサーバー	VNETD	13724 *
メディアサーバー	クライアント	VERITAS_PBX	1556
メディアサーバー	クライアント	VNETD	13724 *
メディアサーバー	MSDP サーバー	Deduplication 10102 Manager (spad)	10102
メディアサーバー	MSDP サーバー	重複排除エンジン (spoold)	10082
メディアサーバー	プライマリサーバー	NBWMC	5637 ¹
メディアサーバー	MSDP サーバー	NFS	TCP 2049 ²
メディアサーバー	MSDP サーバー	ポートマッパー	TCP/UDP 111 ²
メディアサーバー	MSDP サーバー	Mountd	TCP 20048 ²
メディアサーバー	MSDP サーバー	Webserver	443 ³
メディアサーバー	MSDP サーバー	SMB/CIFS	TCP 445 ²

ソース	宛先	サービス	ポート
MSDP サーバー	クラウドストレージ	<ul style="list-style-type: none"> ■ AWSと互換性のあるサービス ■ Azure 	443

- * 耐性ネットワーク機能を使用する間、または NetBackup 8.0 以前のメディアサーバーが PBX を介してレガシーサービスにアクセスできない場合に該当します。
- ¹ このポートは、クラウドストレージ用に構成されたメディアサーバーに対し、旧バージョンのメディアサーバーをサポートするために使用されます。サポートされるのは、バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーのみです。
古いメディアサーバーがこのポートを使用していることを確認してください。古いメディアサーバーが別のポートを使用している場合、プライマリサーバーとの通信が失敗します。
- メディアサーバーからターゲットストレージサーバー (クライアント) に開く必要があります。
- ³ メディアサーバーからプライマリサーバーに開く必要があります。

NetBackup クライアントのポート

クライアントは、ユーザーやクライアントから開始される操作 (Oracle および SQL Server のアプリケーションバックアップなど) を始めるために、プライマリサーバーへのアクセスを必要とします。

クライアント側の重複排除を使用する場合、クライアントは MSDP メディアサーバーとも通信する必要があります。

次の表は、クライアントに必要なポートをリストしたものです。

表 2-4 NetBackup クライアントのポート

ソース	宛先	サービス	ポート
クライアント	プライマリサーバー	VERITAS_PBX	1556
クライアント	プライマリサーバー	VNETD	13724 *
クライアント	メディアサーバー	VERITAS_PBX	1556
クライアント	メディアサーバー	VNETD	13724 **
クライアント	MSDP サーバー	Deduplication Manager (spad)	10102

ソース	宛先	サービス	ポート
クライアント	MSDP サーバー	Deduplication Engine (spoold)	10082

* 耐性ネットワーク機能を使用する間に適用されます。

** 耐性ネットワーク機能を使用する間必要です。

NetBackup WORM ストレージサーバーのネットワークポート

このトピックでは、WORM ストレージサーバーが NetBackup プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントと通信するために必要な NetBackup ポートのリストを示します。

表 2-5

ソース	宛先	サービス	ポート
管理ワークステーション	WORM ストレージサーバー	SSH	22 ¹
プライマリサーバー	WORM ストレージサーバー	Web サーバー	443
メディアサーバー	WORM ストレージサーバー	重複排除マネージャ (spad)	10102
メディアサーバー	WORM ストレージサーバー	重複排除エンジン (spoold)	10082
クライアント	WORM ストレージサーバー	重複排除マネージャ (spad)	10102 ²
クライアント	WORM ストレージサーバー	重複排除エンジン (spoold)	10082 ²
クライアント	WORM ストレージサーバー	NFS	2049
クライアント	WORM ストレージサーバー	ポートマッパー	TCP/UDP 111
クライアント	WORM ストレージサーバー	Mountd	20048
クライアント	WORM ストレージサーバー	SMB/CIFS	445

ソース	宛先	サービス	ポート
クライアント	WORM ストレージサーバー	rpc.statd	TCP/UDP 662
クライアント	WORM ストレージサーバー	rpc.mountd	TCP/UDP 892
WORM ストレージサーバー	WORM ストレージサーバー	NetBackup 証明書管理	10088 ³
WORM ストレージサーバー	WORM ストレージサーバー	SPWS	10086 ³
WORM ストレージサーバー	プライマリサーバー	VERITAS_PBX	1556

1 - このポートは、WORM ストレージサーバーを管理するために、重複排除シェルにアクセスするために使用されます。管理ネットワークからこのポートへのアクセスのみを許可することをお勧めします。

2 - これらのポートは Client Direct 機能を使用する場合に必要です。

3 - これらはローカルホスト接続です。

NetBackup Snapshot Manager のポート

次の表に、NetBackup と NetBackup Snapshot Manager の間で使用されるポートを示します。ポート間にファイアウォールがある場合は、必要なポートを開く必要があります。

表 2-6 NetBackup Snapshot Manager を使用する環境で開く必要があるポート

ソース	ポート	宛先	説明
プライマリサーバー	443	Snapshot Manager	API 要求を処理します。デフォルトポートで構成する場合は、カスタムポートのファイアウォールでインバウンドを許可する必要があります。
メディアサーバー	443	Snapshot Manager	API 要求を処理します。デフォルトポートで構成する場合は、カスタムポートのファイアウォールでインバウンドを許可する必要があります。
クライアント	443	Snapshot Manager	API 要求を処理します。デフォルトポートで構成する場合は、カスタムポートのファイアウォールでインバウンドを許可する必要があります。

ソース	ポート	宛先	説明
Snapshot Manager エージェント	5671	Snapshot Manager	Snapshot Manager エージェントとの通信。
Snapshot Manager	1556	プライマリサーバー	NetBackup プライマリサーバーへの登録。

NetBackup Snapshot Manager for Cloud

保護対象の VM とのエージェントレス通信に必要な追加ポート

次の表に、NetBackup Snapshot Manager for Cloud が保護対象の VM とのエージェントレス通信を使用している場合に開く必要がある追加のネットワークポートを示します。

表 2-7 保護対象の VM とのエージェントレス通信に必要な追加ポート

ソース	ポート	宛先	説明
Snapshot Manager	22	Linux および Windows VM	Linux/Windows VM (OpenSSH) へのエージェントレス接続用。

バックアップコピーからの SFR (シングルファイルリストア) に必要な追加ポート

- Windows の場合: ストレージサーバーから SMB 共有にアクセスするには、ポート 139 と 445 をクライアント (オンホストエージェントが実行されているターゲット VM) からアウトバウンドに開く必要があります。
- Linux の場合: ストレージサーバーから NFS 共有にアクセスするには、ポート 2049 と 111、標準の NFS ポート、2049 と 111 をクライアント (オンホストエージェントが実行されているターゲット VM) からアウトバウンドに開く必要があります。

NetBackup Web UI のポート

NetBackup Web UI では、通信に次のポートが使用されます。

表 2-8 NetBackup Web UI のポート

ソース	宛先	サービス	ポート
Web ブラウザ	プライマリサーバー	NBWMC	443
Web ブラウザ	プライマリサーバー	NBWMC	13731 *

* このポートは、スマートカード認証が構成されている場合にものみ使用してください。

Java コンソールのポート

Java コンソール (NetBackup 管理コンソール) では、通信に次のポートを使用します。

表 2-9 Java コンソールのポート

ソース	宛先	サービス	ポート
Java コンソール	プライマリサーバー	VERITAS_PBX	1556
Java コンソール	プライマリサーバー	VNETD	13724

D-NAS ポート

D-NAS のバックアップとリストアのポートの要件を次に示します。

表 2-10 D-NAS ポートの要件

ソース	プロトコル	ポート	宛先	説明
バックアップホスト	TCP	1556	プライマリサーバー	PBX
バックアップホスト	TCP	13724	プライマリサーバー	VNETD
バックアップホスト	TCP	2049	アレイ	NFS アクセスバージョン 4 で必要です。
バックアップホスト	TCP	111	アレイ	NFS アクセスバージョン 2 と 3 で必要です。
バックアップホスト	TCP	445	アレイ	SMB
バックアップホスト	TCP	443	Snapshot Manager for Data Center	API 要求を処理するためのデフォルトポート。カスタムポートを使用する場合、ファイアウォールはカスタムポートのインバウンドトラフィックを許可する必要があります。
Snapshot Manager for Data Center	TCP	1556	プライマリサーバー	NetBackup プライマリサーバーへの登録。

NDMP サーバーポート

NDMP サーバーのバックアップとリストアのポートの要件を次に示します。

- ローカル、リモート、**3-way** のすべての種類の NDMP の操作では、**10000** 番の TCP ポートをメディアサーバー (DMA) から NDMP ファイラ (テープまたはディスク) に開く必要があります。
- NetBackup `SERVER_PORT_WINDOW` をファイラからリモート NDMP のメディアサーバーにインバウンドで開く必要があります。また、ローカルまたは **3-way** NDMP における効率的なカタログファイル (TIR データ) の移動においてもこのポートを開く必要があります。

DataDomain OpenStorage ポート

DataDomain OST ストレージサーバーを使用するには、次のポートを開く必要があります。

- **2049** (`nfs`)、**111** (`portmapper`)、および **2052** (`mountd`) の TCP ポートをメディアサーバーからターゲットストレージサーバーに開く必要があります。
- **111** (`portmapper`) の UDP ポートをメディアサーバーからターゲットストレージサーバーに開く必要があります。
- また、最適化された複製においては、**2051** (`replication`) の TCP ポートをメディアサーバーからストレージサーバーに開く必要があります。

NetBackup 個別リカバリテクノロジー (GRT) ポート

次のポートは、NetBackup の GRT 機能を使用するために開く必要があります。

- **111** 番 (`portmapper`) の TCP ポートをクライアントからメディアサーバーに開く必要があります。
- **7394** 番 (`nbfsd`) の TCP ポートをクライアントからメディアサーバーに開く必要があります。

ネットワークアドレス変換とポートアドレス変換

NetBackup 8.2 以降のバージョンでは、ネットワークアドレス変換 (NAT) を実行するデバイスを通じてパブリックネットワーク内の NetBackup サーバーに接続された、プライベートネットワーク内の NetBackup クライアントがサポートされるようになりました。そのような NetBackup クライアントは NAT クライアントと呼ばれます。

NAT サポートについて詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

NetBackup 8.3 以降のバージョンでは、ネットワークアドレス変換 (NAT) を実行するデバイスを通じてパブリックネットワーク内のプライマリサーバーに接続された、プライベートネットワーク内のメディアサーバーがサポートされるようになりました。

NetBackup Messaging Broker (nbmqbroker) サービスによって使用されるクライアントの TCP ポートは、プライマリサーバーに対して開かれている必要があります。デフォルトのポートは、configureMQ コマンドを使用して更新した場合を除いて **13781** です。

サーバーとクライアント間の接続の開始方向は逆になることに注意してください。PBX/1556 の TCP ポートはクライアントからサーバーに対して開かれている必要があります、サーバーからクライアントに対して開かれる必要はありません。

詳しくは、[NetBackup の NAT と PAT のサポート](#)に関する記事を参照してください。

NetBackup の従来の Web サービス用のポート構成

NetBackup のインストールプロセスで、自動的に configurePorts スクリプトが実行され、次のポートの組み合わせのいずれかで NetBackup の従来の Web サービスを実行するように設定されます。

表 2-11 NetBackup の従来の Web サービス用ポートセット

ポートセット	HTTPS ポート	シャットダウンポート
最初のセット	8443	8205
2 番目のセット	8553	8305
3 番目のセット	8663	8405

メモ: シャットダウンポートは、ローカルのホスト内接続のみで有効になります。したがって、外部接続の場合は開く必要はありません。

使用する HTTPS ポートは、プライマリサーバーの受信用に開く必要があります。

configurePorts スクリプトで未使用のセット (たとえば 8443 と 8205) が 1 つも見つからない場合は、次のファイルにエラーが記録されます。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥nbwmc_configurePorts.log
```

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/opensv/wmc/webserver/logs/nbwmc_configurePorts.log
```

UNIX および Linux の場合、次のものが NetBackup システムコンソールに表示されます。

```
configurePorts: WmcPortsUpdater failed with exit status <status_code>
```

このエラーが発生するとき、プライマリサーバーに次の手順を使って手動でポートを構成してください。configurePorts コマンドは次の場所にあります。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥configurePorts
```

UNIX または Linux の場合:

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/configurePorts
```

メモ: プライマリサーバー上の NetBackup Web サービスはポート 1024 以上が必要です。1024 未満のポート番号は使用しないでください。1024 未満のポートは権限設定されており、NetBackup Web サービスでは使用できないようになっています。

NetBackup Web サービスのためにポートを構成するには

- 1 プライマリサーバーで、次を入力して現在構成されたポートを一覧表示します。

```
configurePorts -status
```

出力例は次のとおりです。

```
Current Https Port: 8443  
Current Shutdown Port: 8205
```

- 2 次の形式の configurePorts コマンドを使ってポートを再構成してください。

```
configurePorts -httpsPort https_port | -shutdownPort shutdown_port
```

一度に 1 つまたは 2 つのポートを構成できます。たとえば、HTTPS ポートを 8553 に構成するには、次のようにします。

```
configurePorts -httpsPort 8553
```

出力例は次のとおりです。

```
Old Https Port: 8443  
New Https Port: 8553
```

必要に応じたコマンドを使って、HTTPS、シャットダウンの 1 セットのポートを構成します。

ポートセットのリストについては、表 2-11 を参照してください。

- 3 プライマリサーバーがクラスタ環境にある場合、次のように指定します。
 - ポートの同じセットがすべてのクラスタノードで自由であることを確かめてください。各ノードで手順 1 を行います。

- 各ノードのポートを必要に応じて再構成してください。手順2を行ってください。
- すべてのノードで使われるポートを無視するには、次を入力します。

```
configurePorts -overrideCluster true
```

このコマンドは共有ディスクの次のファイルを更新します。

Windows の場合:

```
install_path/NetBackup/var/global/wsl/portfile
```

UNIX または **Linux** の場合:

```
/usr/opensv/netbackup/var/global/wsl/portfile
```

Web サービス用の **NetBackup** インストーラはクラスタモードのインストール中にこのファイルを使います。

他のネットワークポート

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Deduplication](#) ポート
- [NetBackup マルウェア検出](#)ポート
- [NetBackup VMware](#) ポート
- [NetBackup vSphere Web Client](#) プラグインのためのポートの使用
- [Nutanix AHV](#) クラスタポート
- [さまざまなアレイに必要なポート](#)
- [Kubernetes](#) 作業負荷のポート要件
- [NetBackup CloudStore Service Container \(nbcssc\)](#) ポート

NetBackup Deduplication ポート

次の表に、メディアサーバー重複排除 (MSDP)、および最適化重複排除を含む NetBackup Deduplication で使用するポートを示します。さまざまな重複排除ホストの間にファイアウォールがあれば、必要なポートを開く必要があります。

重複排除ホストは、自身のデータを重複排除するメディアサーバー、重複排除ストレージサーバー、負荷分散サーバー、クライアントです。

メモ: Client-Direct (Client Deduplication) を行う MSDP と最適化複製には、いくつかのポートを開く必要があります。

Client Direct リストア時には、NetBackup クライアントとプライマリサーバー間で TCP ポート 1556 が開いている必要があります。

表 3-1 NetBackup Deduplication ポートの使用方法

ポート	使用方法
10082	これは、MSDP が使用する NetBackup Deduplication Engine (spoold) ポートです。以下の両者の間で、このポートを開いてください。 <ul style="list-style-type: none">■ 重複排除クライアントとストレージサーバー。■ MSDP とストレージサーバー。
10102	これは、MSDP によって使われる NetBackup Deduplication Manager (spad) ポートです。以下の両者の間で、このポートを開いてください。 <ul style="list-style-type: none">■ 重複排除クライアントと MSDP サーバー。■ MSDP サーバーと指紋を処理する追加のサーバー。
10090	これは、MSDP によって使用される Cohesity Provision File System (VPFS) ポートです。以下の両者の間で、このポートを開いてください。 <ul style="list-style-type: none">■ NetBackup Flex Scale の MSDP エンジン。■ NetBackup Cloud Scale の MSDP エンジン。

最適化複製を実行するストレージサーバーとメディアサーバー間で、ポート 10082 および 10102 (MSDP) を開く必要もあります。

メモ: 最適化複製で自動イメージレプリケーション (AIR) を使用する場合、NetBackup ドメイン間で TCP ポート 1556、10082、10102 (MSDP) を開く必要があります。

メモ: 分離リカバリ環境の場合、TCP ポート 1556、10082、10102 は、NetBackup ソースドメインでのみ開く必要があります。

NetBackup マルウェア検出ポート

スキャンホストは、必要なマルウェアツールが構成されているホストマシンです。NetBackup と統合されると、NetBackup はスキャンホストでのスキャンを開始します。スキャンホストには、NFS または SMB クライアントの共有タイプが構成されている必要があります。NFS または SMB エクスポートにアクセスできるようにするには、マルウェアスキャナポートを開く必要があります。

スキャンホストの要件については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「スキャンホストの前提条件」セクションを参照してください。

NFS および SMB については、次を参照してください。

[ファイアウォール背後での NFS の実行](#)

Samba がクライアントと通信するためにはどのポートを開く必要がありますか？

NetBackup VMware ポート

TCP ポート 443 および 902 は、次のように VMware のインフラにアクセスするために必要です。

- 443 NetBackup は、次の VMware コンポーネントの TCP ポート 443 に接続します。
- vCenter Server (VM の検出要求、スナップショットの作成と削除、vSphere タグの関連付けなどのため)。
 - vSphere PSC (Platform Services Controller) (vSphere タグの関連付けの検出、バックアップ、リストアのため)。
NetBackup は、vSphere 6.0 以降の vSphere Platform Services Controller (PSC) に接続します。
- 902 TCP ポート 902 は次の場合に必要です。
- HotAdd/NBD/NBDSSL トランスポートをバックアップとリストアのために使用する。
 - リストアを vCenter Server をバイパスする Restore ESX Server で実行する。

NetBackup vSphere Web Client プラグインのためのポートの使用

表 3-2 は、NetBackup vSphere Web Client プラグイン環境で使われる標準ポートを示します。

表 3-2 NetBackup と vSphere Web Client プラグイン環境で使われるポート

ソース	ポート番号	宛先
ブラウザ	9443	vSphere Web Client
VM リカバリの場合: vCenter Server (または個別に配備する場合は vSphere Web Client サーバー)	ポート 8443 (https) またはプライマリサーバーで設定された状態の RESTful インターフェース	プライマリサーバー
プライマリサーバー	443	vCenter Server
バックアップホスト	443	vCenter Server
バックアップホスト	902 (nbd または nbdssl 用)	ESXi

Nutanix AHV クラスタポート

次の表に、NetBackup ホストと Nutanix AHV クラスタホスト間で使用されるポートを示します。さまざまなホストの間にファイアウォールがあれば、必要なポートを開く必要があります。

表 3-3 Nutanix AHV クラスタ環境で開く必要があるポート

ソース	ポート番号	宛先
バックアップホスト	TCP ポート 111 (ポートマップ)	Nutanix AHV クラスタ
バックアップホスト	TCP ポート 2049 (NFS)	Nutanix AHV クラスタ
バックアップホスト	TCP ポート 9440	Nutanix AHV クラスタ
バックアップホスト	TCP ポート 9440	Nutanix AHV Prism Central サーバー
Nutanix AHV クラスタ	TCP ポート 111 (ポートマップ)	バックアップホスト
Nutanix AHV クラスタ	TCP ポート 2049 (NFS)	バックアップホスト
*双方向	TCP 860、3260 を介した iSCSI	*双方向
*双方向	TCP 3205 を介した iSCSI	*双方向

*ポートは、AHV アクセスホストと AHV クラスタ間で双方向に開いている必要があります。ポート 9440 は、AHV アクセスホストから AHV クラスタへのインバウンドのみで開いています。

さまざまなアレイに必要なポート

環境に構成されているストレージデバイスプラグインに応じて、NetBackup Snapshot Manager for Data Center で追加のネットワークポートを開く必要があります。

表 3-4 さまざまなアレイベンダーのポート

宛先	ポート	説明
Dell EMC PowerMax または VMax	8443	DELL EMC Unisphere API
Dell EMC PowerFlex	443	REST API SDK
Dell EMC PowerScale (Isilon)	9021	REST API SDK

宛先	ポート	説明
Dell EMC PowerStore	443	Dell EMC 社の Python SDK: Python Powerstore (1.4.0)
Dell EMC XtremIO	443	REST API
Dell EMC Unity を管理する Unisphere	443	Storops SDK Python ライブラリ
Fujitsu Eternus AF/DX	443	REST API
アレイを管理する Fujitsu Eternus AB/HB またはプロキシサーバー	443	WSAPI
HPE RMC	443	REST API
HPE XP Configuration Manager REST サーバー	443	REST API
HPE Alletra 9000	443	WSAPI
HPE Alletra 6000	443	REST API
HPE GreenLake for Block Storage	443	WSAPI
Hitachi NAS	8444	REST API
Hitachi SAN	8444	REST API
IBM Storwize SAN V7000	7443	REST API
IBM FlashSystem	7443	REST API
IBM SAN ボリュームコントローラ	7443	REST API
InfiniBox SAN	443	InfiniSDK
InfiniBox NAS	443	REST API
Lenovo DM 5000	443	ZAPI または REST API
NetApp FAS	443	ZAPI または REST API
NetApp CVO (Cloud Volumes ONTAP)	443	REST API
Amazon FSx for NetApp ONTAP	443	REST API
アレイを管理する NetApp E シリーズま たはプロキシサーバー	8443	WSAPI
Nutanix Files ファイルサーバー	9440	REST API

宛先	ポート	説明
Pure Storage FlashArray	443	Pure Storage SDK
Pure Storage FlashBlade	443	Pure Storage SDK
PowerMax eNAS	443	XML API
Qumulo NAS、すべての管理インターフェース	443	REST API

Kubernetes 作業負荷のポート要件

次の表は、Kubernetes Operator を配備するためのポート要件を示しています。さまざまなホストの間にファイアウォールが存在する場合は、必要な通信ポートを開く必要があります。

表 3-5 NetBackup Kubernetes クラスタ環境で開く必要があるポート

ソース	ポート番号	宛先
NetBackup プライマリサーバー/メディアサーバー	Kubernetes API サーバーポート	Kubernetes クラスタ
Kubernetes クラスタ	Kubernetes API ポート (NetBackup バージョン 9.1 が該当、バージョン 10.0 以降は該当せず)。	NetBackup プライマリサーバー

メモ: NetBackup Kubernetes Operator (KOps) と datamover ポッドの場合は追加要件があります (NetBackup 10.0 で採用)。

Kubernetes クラスタ	TCP ポート 1556 (アウトバウンド)	NetBackup プライマリサーバー/メディアサーバー
	TCP ポート 13724 (インバウンド) [耐性ネットワークを使用する場合にのみ必要です。]	メディアサーバー

NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) ポート

これは、バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーにのみ該当します。

CloudStore Service Container (nbcssc) は、クラウドストレージ用に構成した古いメディアサーバーで実行する Web ベースのサービスコンテナです。このコンテナは、スロットルサービスと測定データコレクタサービスを実行します。

表 3-6 NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) ポート

ポート	ソース	宛先	プロセス	説明
5637	メディアサーバー 7.7.x から 8.1.2 の場合のみ	プライマリサーバー	NBWMC	<p>プライマリサーバーと、クラウドストレージ用に構成されたすべてのメディアサーバーとの間の通信を許可します。</p> <p>このポートは、旧バージョンのメディアサーバーをサポートするために使用されます。サポートされるのは、バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーのみです。</p> <p>古いメディアサーバーがこのポートを使用していることを確認してください。古いメディアサーバーが別のポートを使用している場合、プライマリサーバーとの通信が失敗します。</p>
5637	プライマリサーバー	メディアサーバー 7.7.x から 8.1.2 の場合のみ	NBCSSC	<p>プライマリサーバーと、クラウドストレージ用に構成されたすべてのメディアサーバーとの間の通信を許可します。</p> <p>このポートは、旧バージョンのメディアサーバーをサポートするために使用されます。サポートされるのは、バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーのみです。</p> <p>古いメディアサーバーがこのポートを使用していることを確認してください。古いメディアサーバーが別のポートを使用している場合、プライマリサーバーとの通信が失敗します。</p>

ポート番号は、次のように、CloudStore Service Container 構成ファイル (cloudstore.conf) で定義されます。

CSSC_PORT=5637

構成ファイルは、古いメディアサーバー上の次のディレクトリにあります。

- UNIX の場合: `/usr/opensv/netbackup/db/cloud`
- Windows の場合: `install_pathVeritas¥NetBackup¥db¥cloud`

詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

記号

ポート番号

CloudStore Service Container (nbcssc) 23
重複排除 18

C

CloudStore Service Container (nbcssc) ポート 23

D

DataDomain ポート 14

G

GRT ポート 14

N

NAT および PAT 14

NDMP サーバーポート 14

NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc)
ポート 23

NetBackup ポート 6

T

TCP ポート 5

V

VERITAS_PBX

VNETD 5

VMware ポート 20

vSphere Web Client プラグインのポート 20